

1	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14101005	寺院経蔵の構成と伝承に関する実証的研究 －高山寺の場合を例として－	石塚 晴通 (北海道大学・名誉教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>優れた研究分担者集団によって、訓点語・漢字字体・字音研究の各分野に於いて、極めて学術的価値の高い研究成果があがったものと評価できる。研究成果がやや具体性を欠く点については意見が分かれるところであろうが、本研究は基本的に大変実証的で地味な性格のものであり、早急な成果を期待してはならず、今後、かなり長期的に次々と本研究に関連する研究成果が公開されて行くものと期待される。</p> <p>本研究の基幹となる中国湖北省博物館所蔵の楊守敬旧蔵書についていえば、上海辞書出版から『湖北省博物館蔵日本卷子本経籍文書』が昨年12月に出版されている。この出版との関係が必ずしも明らかでない。貢献度に応じて共著などと、明記すべきであったのではないかと惜まれる。</p> <p>また、年度毎の調査データ等は社会還元の意味からも、研究終了時には速やかに公開する義務があるだろう。常識的にみて極端に膨大なデータとは考えられないので、成果に関わる目録データ・テキスト入力データなどの公表、及び購入された高山寺旧蔵『大師伝法灌頂』などのネットワーク公開については、事後評価後も義務として重く受け止め、公開に向けて努力されるよう要望したい。</p>				
2	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14101004	古代アナトリアの文化編年の再構築 －カマン・カレホユックにおける前3－2千年紀の文化編年－	大村 幸弘 ((財)中近東文化センター・学術局・主任研究員)	A
<p>(意見等)</p> <p>カマン・カレホユック遺跡に於いて、厳密で詳細な層位学的調査を進めたことにより、当初目標と掲げた5つの課題のうち、暗黒時代の有無と、鉄器時代の開始時期に関しては、解明の手がかりが得られたと評価できる。これらの文化編年に関する所見は、アナトリア以外の地域にも影響を与え、考古学の関連分野である歴史学や人類学等にも波及するものと思われる。また多くの新聞報道で成果を伝えたことや、トルコの人々とも密接な信頼関係を築いたことも、一般社会への貢献として評価できる。</p>				